

今後のリウマチ対策の方向性について

厚生労働省
健康局 がん・疾病対策課

第1回委員会における論点の整理

●医療の提供等

- ・診療連携体制のあり方について
- ・生物学的製剤の適正使用について
- ・診療の標準化・均てん化について
- ・メディカルスタッフの育成について
- ・年代に応じた診療の充実について

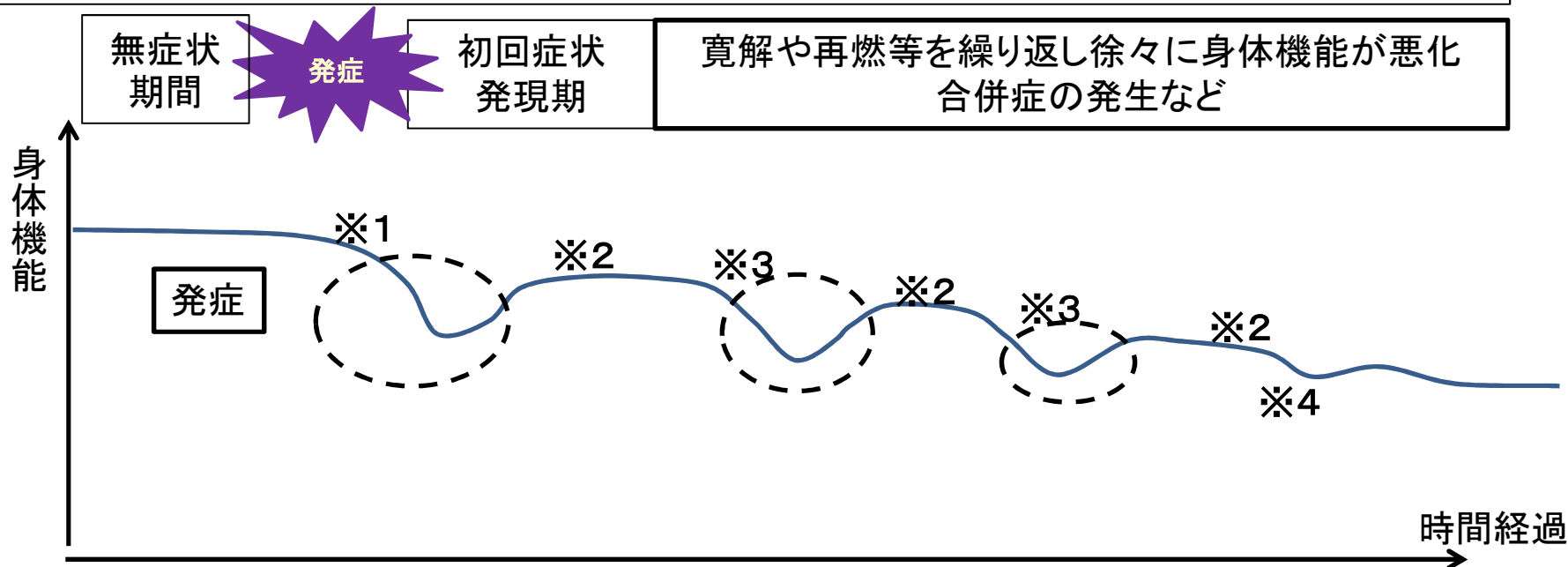
●情報提供・相談体制

- ・国民への正しい知識の普及について

●研究開発等の推進

- ・疫学研究の必要性について
- ・免疫学的な機序解明について
- ・ライフステージ別の診療における現状と対策について

診療連携体制のあり方について



関節リウマチ診療ガイドラインJCR2014に基づく一般医向け診療ガイドラインより(資料3裏面)

※1: 診断が確定していない早期関節炎患者の診断と治療方針 ⇒ 専門医療機関

※2: 薬物治療が奏功して安定した経過をたどっている患者の日常的な診療 ⇒ 一般医

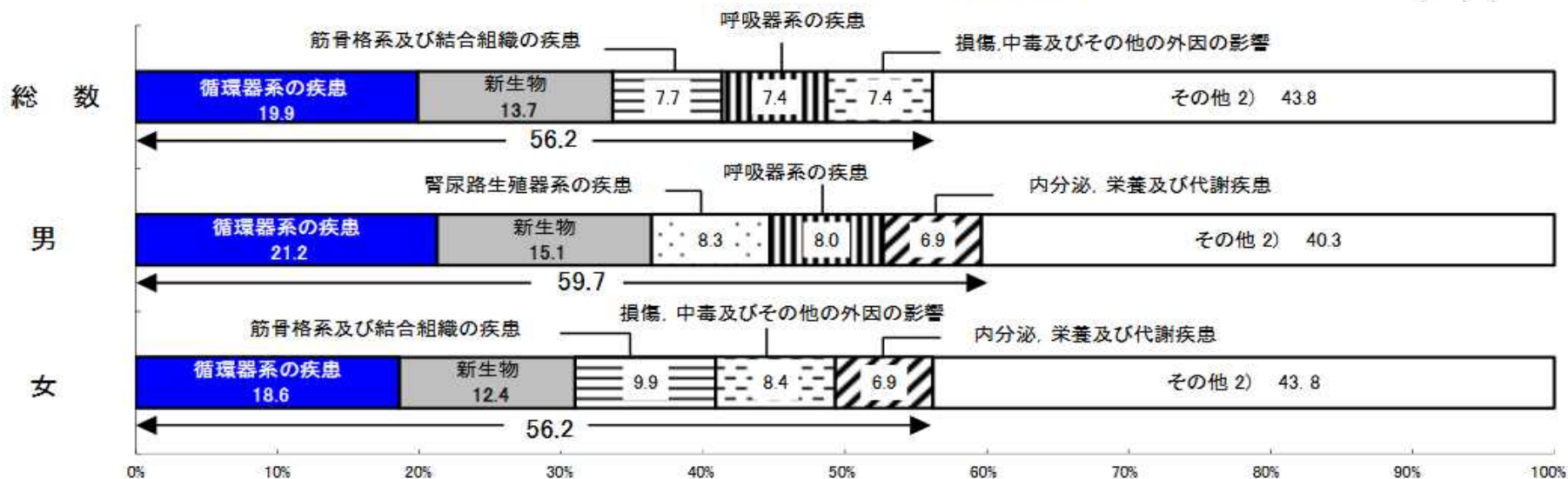
※3: 関節リウマチに起因する関節手術が必要な場合の手術 ⇒ 専門医療機関

※4: 関節リウマチに起因する関節手術実施後の整形外科的な経過観察 ⇒ 専門医療機関

○症状が安定している日常的診療は、可能な限り一般医が担当する。

★関節リウマチの診療では、発症直後や再燃等による身体機能の悪化や合併症が生じた際には、専門医療機関において、投薬内容の変更や外科的治療の検討等、治療方針を検討するために、内科や整形外科等が連携可能な専門機関に紹介する基準等を整備する必要があるのではないか。

生物学的製剤の適正使用について



注：1) 傷病分類は、ICD-10（2003年版）に準拠した分類による。

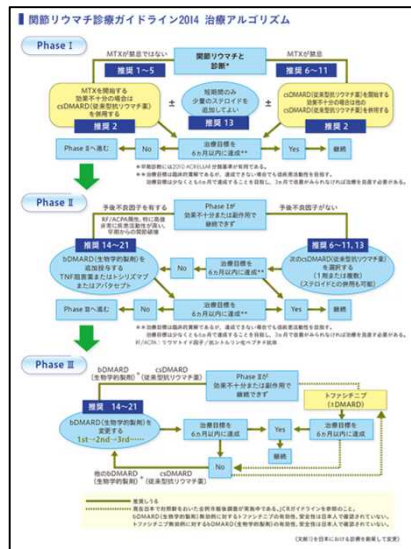
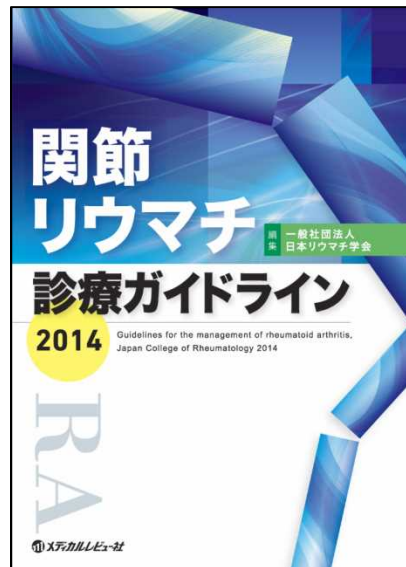
2) 上位5傷病以外の傷病である。

厚生労働省 平成27年度 国民医療費の概況

○「筋骨格系及び結合組織の疾患」にかかる医療費の中で、炎症性多発性関節障害は、2873億円を占めている。

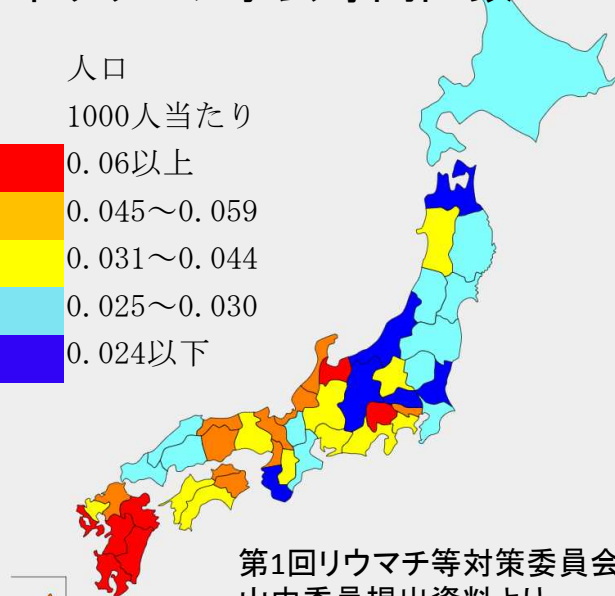
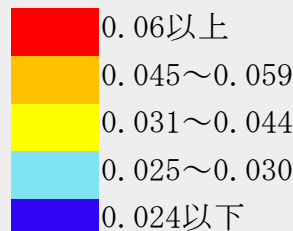
★関節リウマチ診療ガイドライン2014(資料4)の普及などを通じて、高額な生物学的製剤の適正な使用についての検討の必要があるのではないか。

診療の標準化・均てん化について



日本リウマチ学会専門医数

人口
1000人当たり



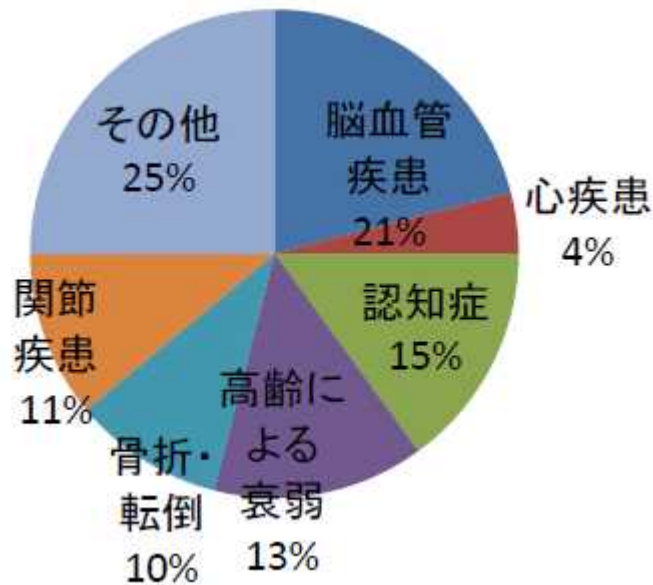
第1回リウマチ等対策委員会
山中委員提出資料より

一般社団法人 日本リウマチ学会: 関節リウマチ診療ガイドライン2014

- ★関節リウマチ診療ガイドライン、一般医向け診療ガイドラインが、策定されており、その周知を行うなど、診療の標準化・均てん化を推進する必要があるのではないか。
- ★ガイドライン等への反映を見据え、薬剤の減量・休薬・中止についての検討を進める必要があるのではないか。
- ★関節リウマチを専門的に診療できる医師の偏在が問題となっており、専門的に診療ができる医師の育成に、引き続き取り組んでいく必要があるのではないか。

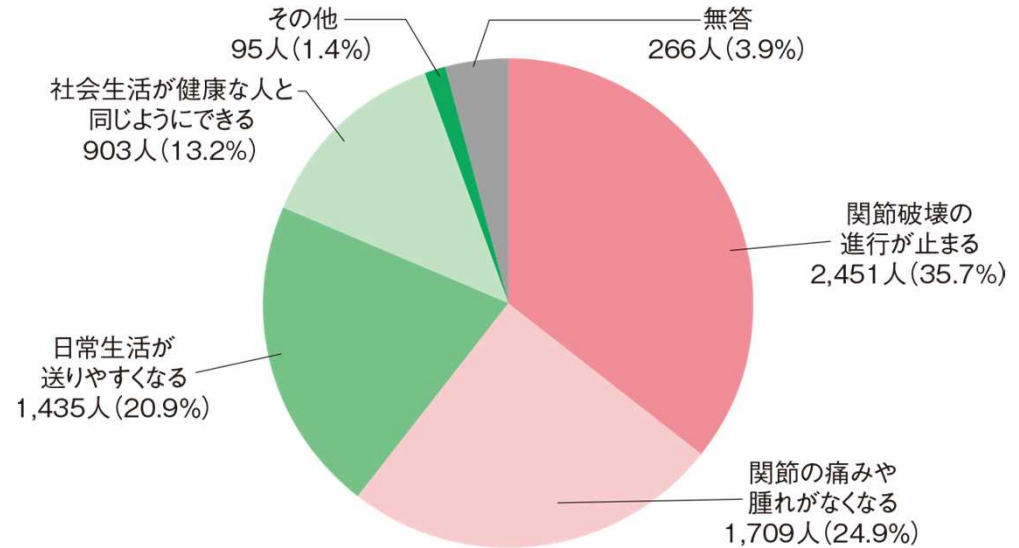
メディカルスタッフの育成について

介護が必要となった主な原因構成



厚生労働省 平成22年国民生活基礎調査

治療に一番期待すること

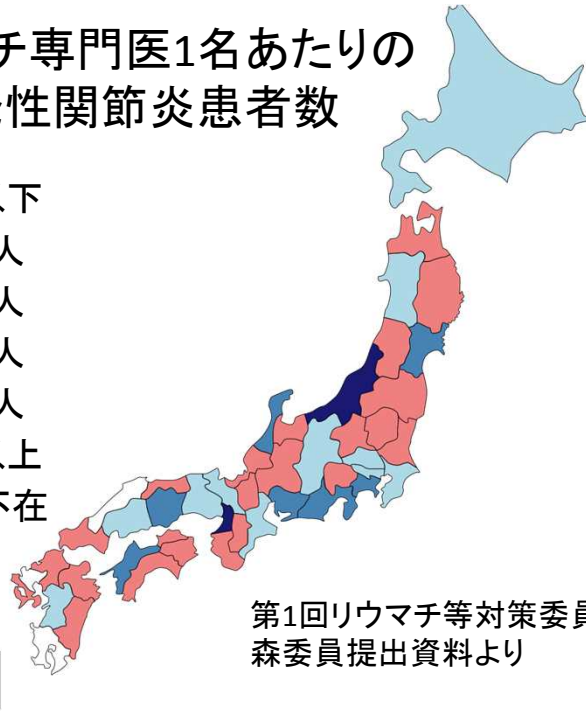
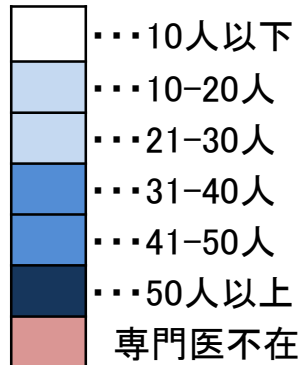


公益社団法人日本リウマチ友の会:2015年リウマチ白書総合版より

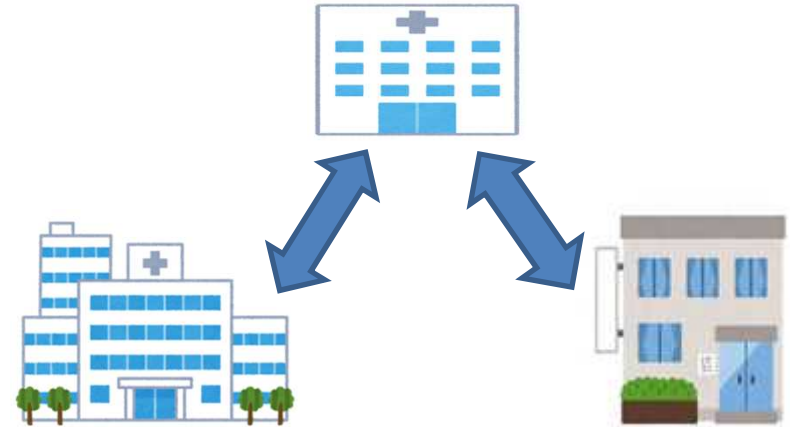
- 医師負担の増大の中で、より良好な患者-医師関係を求めるといった患者側からの要望がある。
- ★専門的な医師の偏在・不足といった問題点も含めて、専門的なメディカルスタッフの育成が重要となってくるのではないか。
- ★早期の理学療法や運動療法の導入など、身体活動の低下を防ぎ、治療と就労の両立を支援する方法等を検討する必要があるのではないか。

年代に応じた診療の充実について(小児期・移行期)

小児リウマチ専門医1名あたりの
若年性特発性関節炎患者数



小児リウマチ診療施設

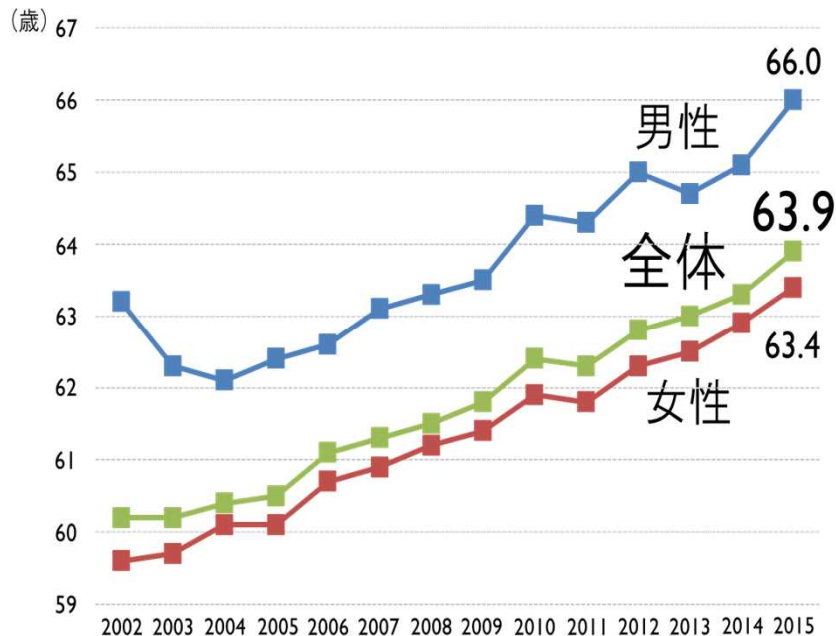


成人リウマチ診療施設

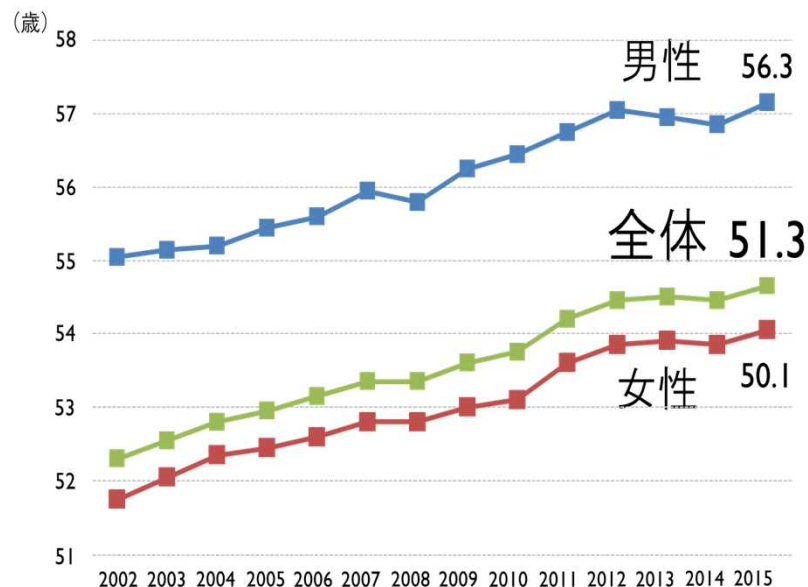
- 関節リウマチへ移行する率が高い小児の若年性特発性関節炎を診療する小児のリウマチ専門医が不足している。
- 現在、厚生労働科学政策研究の中で、小児期から成人期でのシームレスな診療連携体制の構築を目指す研究を行っているところである。
- ★このような小児の診療施設と成人の診療施設の連携体制を構築していく必要があるのではないか。

年代に応じた診療の充実について(高齢者)

平均年齢



平均発症年齢



Ninjaデータベース2015: 第1回リウマチ等対策委員会 田中委員提出資料より

○患者の高齢化が進む中、多くの合併症を有するために治療選択に制限があり、かつ加齢に伴う様々な運動器の問題により、ADL、QOLが大きく損なわれている。

★こうした高齢者リウマチ患者に対して、その特徴に配慮した診療について検討する必要があるのではないか。

国民への正しい知識の普及について

リウマチ・アレルギー相談員養成事業

地域における相談体制を整備するため、保健師等従事者を対象とした相談員の養成研修会を実施。(平成13年度より)

研修会参加者数の推移

| 年度 | 実施主体 | 会場数 | 受講者数 |
|----|-----------|-----|------|
| 26 | 日本予防医学協会 | 5 | 326人 |
| 27 | 日本予防医学協会 | 5 | 423人 |
| 28 | 日本予防医学協会 | 5 | 412人 |
| 29 | 日本アレルギー学会 | 8 | 347人 |

毎年の実績報告より作成

リウマチ友の会に寄せられた相談件数

| 年 | 相談総数(うち本部) | 会員 | 会員外 |
|----|--------------|-------|-------|
| 27 | 8,455(6,455) | 2,500 | 3,955 |
| 28 | 8,015(6,415) | 2,000 | 4,415 |
| 29 | 7,284(5,984) | 2,000 | 3,984 |

リウマチ友の会より情報提供

主要な相談内容

- ・医療について(専門医療機関の紹介等)
- ・制度について(医療費や介護認定等)
- ・自助具について(説明、購入等)
- ・就労について

○国の取り組みとして、リウマチ・アレルギー相談員養成研修会を通じて、患者からの相談を受ける人材育成に取り組んできた。

★早期診断・早期治療を推進するため、国民に対し、関節リウマチに関する疾病情報、適切な治療や薬剤に関する情報、医療機関やサービスに関する情報を提供する必要があるのではないか。

★国民への正しい知識の普及を推進するには、患者への相談体制のあり方について等、検討を加える必要があるのではないか。

研究開発等の推進

●現在の状況

- ・標的分子の制御による治療手段の確立
- ・早期治療から始まる治療戦略の確立

●残された課題

- ・疫学研究の必要性について
- ・免疫学的な機序解明について
- ・ライフステージ別の診療の現状と対策について

研究開発等の推進

●今後の方向性

- ・疫学研究の必要性について
- ・免疫学的な機序解明について
- ・ライフステージ別の診療の現状と対策について

これらの課題に対して、取り組みを進めるべきではないか